

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	クリーンハウス株式会社 グループホームたんぽぽ第2	評価実施年月日	2007年5月1日
評価実施構成員氏名	管理者 村松 祐子 計画作成担当者 高橋 昭子 介護職 中筋 一樹 介護職 成田 恵子 介護職 阿部 加津枝 介護職 白石 歩 介護職 星 環 介護職 吉川 久美子 介護職 播磨 めぐみ		
記録者氏名	村松 祐子	記録年月日	2007年5月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスを確認し地域との関係性を強化している。</p>	○	<p>介護理念として明確に表示していく。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングや様々な場面で理念を伝え、話し合いがされている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族とは訪問時に伝えており、地域の人にも見学時や話をする機会には地域の中で暮らす大切さを伝えるようにしている。</p>	○	<p>町内会回覧板にて情報誌を回覧していく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>出勤・退社時、利用者との外出時など、隣近所の人と会った時は進んで挨拶、声掛けを行っている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入している。地域行事や盆踊り等に利用者とともに積極的に参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ヘルパー2級研修の実習生を受け入れている。福祉について学びたいと言う地域の生徒の自主学習を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価及び外部評価の意義や目的を話し合いスタッフ全員で改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では事業所からの報告事項が主となりがちだが、検討事項では広く地域の情報を交換しながら今後のサービスを検討している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括支援専門員会議に毎月出席し交流を図っている。入居者、退居者の報告、情報開示等の要件や国保連からの情報提供についての連絡等で都度担当者とは情報交換を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者。一部の職員は研修会に参加している。支援までしたことはない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p> <p>常に自分達の介護や支援を行っている事でお互いにまた自ら虐待ではないか、見過ごされていないか、チェックし注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居者には契約前にホームを訪問して短時間過ごして貰い、不安や疑問を尋ねて貰うようにしている。契約時には時間をかけ説明し、同意を得るようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の望んでいることを言葉や態度から見極め、不満、苦情を表わせるよう心がけている。家族とも情報交換を心がけており、利用者の思いを代弁してもらっている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月家族へ生活情報として手紙、電話で様子を知らせている。ホームだよりでは行事予定や写真を入れて生活の様子を知らせ、職員、入居者の異動等も伝えている。金銭管理は請求書と一緒に預かり金の明細を記入し領収書添付の上郵送している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族より出された要望や意見はミーティングや都度話し合いの場をもち反映されている。家族の訪問時には何でも言って貰えるような雰囲気をつくりようになっている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、連絡ノートを活用し意見や提案が反映されている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	外出等手厚い対応が必要なときは事前にミーティングをし勤務の調整をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員が対応できる体制をつくるため異動は最小限に抑えている。交代時には数日間前任者と複数で介護にあたっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>北海道・グループホーム協議会主催の研修会には経験年数に合わせ順次研修を受けている。研修報告書を職員で閲覧し、日常的な生活の場で指導・助言がされている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>南空知GH協議会に参加、情報交換の中で色々なことを学んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>利用者と離れ一息入れる時間を作るようにしている。職員同士の人間関係を把握するよう努めており、ホーム全体では、年に一度親睦会を開催している。個々でも何かの折には交流会をもち、気分転換を図っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者が現場で実務に就くこともあり、職員の業務や悩みを把握している。職能評価を行っており、向上心を持つよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の困っていることを時間をかけ聴くようにしている。また行動から適切に見極めるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでの経緯を聴き、ホームではどんな生活を求めているかをゆっくりと時間をかけて話してもらい、家族の思いをくみ取るようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業者のサービスにつなげるような対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族がホームを見学し、体験入居をするなど本人が利用を納得されるよう時間をかけて対応している。やむを得ず入居された時は家族やそれまで関わっていた方に来訪してもらい安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援する側という意識を持たず、お互いに協働しながら和やかな生活ができるように声かけをしている。得意分野で力を発揮してもらい場面を1人ひとりに工夫している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	1人ひとりの様子を文書や電話、訪問時にきめ細かく伝える事で家族との協力関係が築かれており、家族の状況も訪問時に伺い情報交換がされている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	クリスマス会・誕生会など一緒に過ごされた時には、どなたも穏かな表情をされ良い関係が築かれている。家族の来訪時には潤滑油となるよう心がけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	買い物や外食は地域の馴染みの店へ出かけている。知人も遊びにきており、継続的な交流ができるよう働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合った者同士で過ごす場面をつくるなどスタッフが調整役を努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなられた利用者の家族ともお会いした折にはお互いの情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどのように暮らして何をしたいか、誰に会いたいかなど普段の対話の中で把握している。意思疎通が困難な場合は家族や関係者から情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人や家族からどのように生活されていたかを聴いている。日々の生活の中で話されることから、これまでの生活を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護支援記録に一日の過ごし方、心の動き等が記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各人に添った個別の具体的な介護計画を作成している。日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やカンファレンスを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画と照らし合わせて現時点での状況、ニーズ、サービス提供状況がずれていないか検討し、介護計画を随時見直している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各人の支援記録は食事・水分・排泄の身体的状況、暮らしの様子が記載され、全職員が確認している。状態変化は申し送りノート・医療ノートに記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かし、重度化した時でも生活の継続を支援するよう訪問看護ステーションと連携することになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	安心して暮らしていけるよう、警察へ利用者の状況を連絡している。周辺施設へ出かけたり、児童館、ボランティアへ協力を呼びかけている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	社会福祉協議会と連携をとり、介護ベットの椅子の借用をしている。また老人福祉大会やふれあい健康センターの行事に参加している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで月に一度開催される支援専門員等会議での周辺情報や支援に関する情報を伝達してもらい共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	これまでの受診状況や経過、現在の受診希望を把握して希望する医療機関を受診している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院に専門科があり、利用者個々に診断を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員がおり、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。	○	訪問看護ステーションとの契約に基づき、看護師と医療機関との連携を密にとれる体制を確保していく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には支援に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。家族ともこまめに情報交換しながら、早期退院につなげている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人の思いを大切にしながら、家族、担当医と話し合い方針を共有しているが、一部の利用者で終わっている。	○	利用者全員が本人、家族、医師等と話し合い『終末期生活支援に関する覚書』を作成して、全員で確認、共有していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化に向われている利用者については、担当医と話し合い、今後の変化、日々の暮らし方について検討し、スタッフがチームとして支援に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから住み替えをされた方はいませんが、ケア関係者とは話し合いや介護添書の中で、これまでの生活が損なわれないように極め細かい情報提供をしていきたい。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>他の家族や外来者に対して本人のプライバシーに関することを話さないようにしている。人前であからさまに介護をしたり、誘導の声掛けをして傷つけない対応を配慮している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>さりげない場面で、又訪室して一人ひとりの希望や意見を聞いており、説明も都度わかるように行っている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、その人なりの体調に配慮しながら、できるだけ個性のある支援を実施している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>好みの色や今日着たい服を選んで頂いたり、馴染みの理美容室を活用している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>柱となる献立は作成されているが、利用者と献立を決めたりしている。調理・盛り付けと一緒にし、テーブルを囲んで楽しい食事がされている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物へ出かけた時に好みのおやつを選んだり、なにげない言葉をくみ取り1人ひとりが楽しめるよう支援している。食後に喫煙する方もいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握して、一人ひとりの状況に合わせ、さりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則日曜日を除く毎日入浴が実施されている。入浴時間も本人の希望に合わせて、入浴、シャワー浴等と希望によって支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	活動時間、休息時間が1人ひとりの生活に合わせて作られており、夜間も安眠されている。不眠を訴える利用者には温かい飲み物を勧めたり、寄り添って過ごすなどの支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人ひとりの力を発揮して頂けるよう、出来ること、出来そうなことを把握し声掛けし一緒に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の買い物をした時は自分で支払うように支援している。一人で買い物に出かける方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お天気や本人の気分・希望に応じて日常的に散歩、買い物、ドライブに出かけている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	海へ行きたい、温泉へ行きたいなど利用者の思いを実現するため、職員の勤務を調整し、他ユニットと協力して実施している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者の希望により電話をかけている。小包や手紙が届いた時は報告の電話をかけることを勧めている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人の訪問を職員は快く迎え交流している。お茶などを用意して、居室でゆっくりと過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	数名の職員は権利擁護や身体拘束の研修に参加し会議やミーティングで伝達している。日々の申し送りの中で身体拘束が行われておないか検討されている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	出て行く気配を見逃さない連携を試みている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声を掛けて一緒に行くなど安全面に配慮して自由な暮らしを支えており、日中鍵はかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	さりげなく全員の状況を把握するよう努めており、常に職員が見守るようにしている。夜間は2時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所が決められている。利用者の状況に合わせて置き方を工夫したり、保管場所を変更するなど配慮している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	『私の気づき・ヒヤリハット報告書』『事故報告書』を記録し、職員会議で対応を検討、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルが整備され、消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を経て年2回利用者と共に避難訓練を実施している。町内会、運営推進会議にて災害時の協力を呼びかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	抑圧感のない暮らしが利用者にとって大切である事を家族に理解されており、身体状況を配慮した対策を家族と話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の視診、バイタルチェックで職員は身体状況を把握しており、変化が見られたときは記録をつけ、情報を共有している。状況によっては医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを作成し常に副作用、効能を見ており、薬剤の本を見て情報を共有している。服薬時は本人に手渡し服用していることを確認し、症状に変化がみられる時は医師、看護師に報告して対応している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表で確認し利用者に合わせた対応を検討している。乳酸飲料水の飲用、下剤の調整、運動を勧めるなど、毎朝の申し送りでも快便を促すよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後自力又は介助を受け全員が口腔ケアに取り組んでおり、就寝前は義歯を洗浄している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、情報を共有している。1人ひとりの嗜好を元に献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づき、うがい・手洗いを徹底して行っており、ペーパータオルを使用している。トイレ・手摺等は塩素系消毒液で毎日消毒を実施。利用者、職員全員がインフルエンザ予防接種を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう職員で取り決めて実施している。買い溜めはせず、毎日買い物へ行き、冷蔵庫や冷凍庫の食材の点検を頻繁にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花が飾ってあり季節感と明るさがあり、掃除が行き届いており、清潔感もある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	語らいの声や心地よい音楽をホームに適度に流し、季節感を意識的に取り入れ、暖かな空間作りを工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下やコーナーに椅子やテーブルを設置して思い思いに過ごせる居場所を用意している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、ペット等を持ち込み家族と共に居室を用意されている。本人の大切に思っている家族の写真やぬいぐるみ、テレビなどその人らしい部屋作りをされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全室に温湿度計を設置し、温度調節を行っている。空気清浄機を使用したり、1日一度は窓の開閉により換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関・トイレ・浴室・廊下の要所には手摺が配置され、全フロアー、バリアフリーとなっている。洗面所は車椅子椅子対応で、台所も対面キッチンで下膳が各自でされている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室には手作りの名前を付けたり、場所の記名やマークを記している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにテラスを設け、鳥の給餌台やプランターを置き季節の移り変わりを楽しんでいる。夏の間はユニットの全面に園庭が設置され、ベンチで休んだり、会食を楽しむこともある。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) ☆

ご本人の持っている能力を日々の生活の中で十分発揮していただき、その人らしく暮らして行けるよう支援しています。

☆昨年6月より月に一度音楽療法を取り入れています。参加したい方だけで実施していますが、今では全員が参加されるようになりました